

承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
					 	

様式第1号

2025年12月12日

真庭市議会
議長 長尾 修 様

真庭市議会議員 奥 侑樹



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動



2 訪 問 先
(1) 神山まると高専（徳島県神山町）
(2) 高知県土佐町議会議員 ■■■■ 氏（高知県土佐町）
(3) 姫路教育万博（兵庫県姫路市）

3 内 容
本視察は、**「教育イノベーションを核とした地方創生」**を共通テーマとし、以下の3つの先進事例について調査研究を実施する。

1. 神山まると高専（徳島県神山町）

- 視察の核心： 単なるプログラミング教育ではなく、地域課題解決と起業を直結させる STEAM 教育の具体的手法を調査する。
- カリキュラムの論理： 従来の専門分野の縦割りを排し、テクノロジー（Web 工学、AI）、デザイン（UI/UX、アート思考）、**起業家精神（マインドセット、プロジェクト推進力）**の「3つの柱」を複合的に学ぶことで、学生が自ら地域に入り込み、課題を発見し、技術とデ

ザインを用いて解決策を実行・事業化する能力（＝起業家精神）を育成するプロセスを検証する。

- 市政への反映視点： 企業版ふるさと納税を活用した奨学金スキームの持続可能性と、GIGA スクール構想の「その先」を見据えた創造的な ICT 活用モデルの導入可能性を検討する。

2. 高知県土佐町議会議員 ■■■ 氏

- 視察の核心： 教育学者・地方議員としての視点から、「競争原理」に偏らない、地域に根差した**「公教育の公共性の再生モデル」**を調査する。
- 調査項目： 議会、首長部局、教育委員会が連携して策定した「土佐町教育大綱」の策定プロセス、および学校と地域を繋ぐ「教育リエゾン」制度の機能と効果について検証し、本市の教育ビジョン策定における議会関与のあり方を検討する。

3. 姫路教育万博（兵庫県姫路市）

- 視察の核心： 行政主導ではない、現場の教師と民間が連携した**「ボトムアップ型教員研修」**の先進事例を調査する。
- 調査項目： 教員の「ウェルビーイング」と「主体性」を尊重した研修・交流の設計思想を学ぶ。教員が自発的に学び合い、その熱量を学校現場に還元するメカニズムを検証し、本市の教員研修の柔軟性・多様性向上の可能性を検討する。

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

（注）複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

視察行程表

1. 視察日時：令和 8 年（2026 年）1 月 24 日（土）～ 1 月 25 日（日）
2. 視察者：真庭市議会議員 奥 侑樹
3. 詳細行程

月日	時刻	行程内容	移動手段	備考
1月24日(土)	9:00	自宅 発	自家用車	
	12:00	神山まるごと高専 着		視察（調査研究）開始
	15:00	神山まるごと高専 発	自家用車	
	17:00	高知県土佐町 着		鈴木大裕氏と意見交換
				宿泊：鈴木大裕氏自宅
1月25日(日)	8:00	高知県土佐町 発	自家用車	
	10:00	姫路教育万博 着		視察（調査研究）開始
	13:00	姫路教育万博 発	自家用車	
	15:00	自宅 着		視察終了

1. 宿泊先情報

○ 施設名： ████████ 氏自宅（高知県土佐町）

報 告 書

2026年3月5日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 奥 侑樹



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 2026 年 1 月 24 日 至 2026 年 1 月 25 日	
2 場 所	・徳島県神山町（神山まると高専、および周辺施設） * 予定していた姫路教育万博への参加は日程の都合上見送り	
3 用 件	地方の教育と地域社会の連携による地域創生の先進事例、特に「神山まると高専」の設立と運営に関する調査研究を通じ、今後の真庭市政運営及び地域課題解決に資する知見を獲得することを目的とする。	
4 概 要	（１）神山まると高専の教育理念とカリキュラム： 教育理念：「テクノロジー×デザインで、人間の未来をつくる」を掲げ、創造性と実践力を重視。カリキュラム：一般的な高専とは異なり、座学を必要最低限に抑え、「デザイン思考」「プログラミング」に重点を置いた探究学習を主軸としている。特に、地域企業との連携による実装型プロジェクト学習（PBL）に力を入れている。学生の多様性：全国から集まった学生が、地域に溶け込んだ生活（寮生活、地域交流）を通じて、社会性や自主性を育んでいる。 （２）地域との連携・エコシステム： 地域貢献：高専の学生・教職員が地域イベントへの参加、	

IT 技術を活用した地域課題解決プロジェクトに取り組んでいる。移住促進：高専の設立が、若者や教職員の移住を促し、関連企業（サテライトオフィスなど）の誘致にも繋がっている。財政基盤：企業からの寄付や地域からのサポートによる、独自の持続可能な運営モデルを構築。

5 所感

今回の視察では、既視察の愛媛県立長浜高校、FC 今治高校里山校にも共通する成功要因である**「キーパーソンの存在」と「地域社会の熱意とサポート」に加え、「明確なビジョンに基づく大胆なカリキュラム編成」**が神山まるごと高専の最大の優位性であると確認した。真庭市においては、本高専の「テクノロジー×デザイン」という軸や、地域企業を巻き込んだ実装型教育、そして全国から学生を誘致するための環境整備（寮や地域との交流）といった要素が、既存の教育機関や地域課題解決策に応用可能である。特に、新しい技術を学ぶ環境と、それを地域で実践する機会を創出することが、若者の定着と地域経済の活性化に繋がる重要な知見である。（特記事項：
氏（神山まるごと高専 教育委員長）より直接、設立経緯と教育への熱い思いを聞くことができた。）

